

福井県公害センター年報

第 4 卷
1 9 7 4

Annual Report
of
The Environmental Pollution Research Center
of Fukui Prefecture

vol. 4
1 9 7 4

福井県公害センター

正 誤 表

P	行 数	誤	正
5	上から 14 行目	3,9 8,0 0 0	3 9 8,0 0 0
6	上から 11 行目	公害計画測器	公害計測器
7	上から 10 行目	測定結開	測定結果
7	下から 1 行目	表－4	表－5
16	表 － 1	福井本部	福井本郷局
47	下から 4 行目	明薄	明瞭
65	下から 5 行目	Cu ^{II}	Cu ¹⁺
135	表－1の中	cl ⁻	Cl ⁻
135	MPN平均値中	5.060	5,0 6 0
157	Table－1	HiBuNa	HIBUNA

はじめに

わが国の経済は高度成長から安定成長の時代となりましたが、環境汚染は一部に改善が見られるものの、依然として深刻なものがあります。当所がこの土地に移ってはや3年余を過ぎましたが、山積した業務は増えこそすれ、少しも減りそうにありません。当所の事業用備品整備3カ年計画は49年度で最終年を迎え、一応整えることができました。しかし、環境汚染の複雑多様化、機器の発達、分析技術の高度化に伴い、今後新たに整備を急がねばならない機器類がまだ数多くあります。

本年度の特筆すべきことは大気汚染監視テレメーターシステムの稼動であります。このシステムは49年度より3カ年で整備される計画ですが、その規模は公害中央監視局庁舎の新築に加え観測局60カ所、測定項目15種類となっています。アルミ精錬を中心とする臨海工業地帯を造成している小さな本県としては並々ならぬ努力を払っている次第です。私共としては神経質にppmの数値に一喜一憂することなく、科学技術の成果を踏まえて、自信をもって県民にサービスして行かねばならないと思っています。

この所報は毎日追いまくられている仕事の合間に一年間の活動記録をとりまとめたものです。日頃お寄せいただいた皆様のご厚意に深く感謝すると共に、今後のご指導を念願としてここにお届け致します。

昭和50年10月

福井県公害センター

所長 松田 漸

目 次

1. 運 営 概 要

1. 沿 革	1
2. 機 構	1
3. 業務内容	1
4. 人 員	2
5. 業務分担	2
6. 予 算	4
7. 事業実施概要	5
(1) 公害技術会議	5
(2) 公害技術研修	6
(3) 市町村技術研修	6
(4) 大気汚染防止対策	6
(5) 水質保全対策	37
8. 備品整備状況	42

2. 調 査 研 究 報 告

1. いおう酸化物、窒素酸化物濃度と気圧配置型（第2報）	45
2. 県内主要交差点における自動車排ガス汚染調査	52
3. 大気汚染による金属腐食調査（第4報）	64
4. 大気中重金属濃度調査（第2報）	78
5. 環境中TMAのガスクロマトグラフ測定について	87
6. シリカゲル充填剤を用いたFPDガスクロマトグラフによる発生源排ガス中の 硫化水素の定量について	92
7. 自動測定機の正確性、再現性に関する調査研究について	97
8. 北潟湖の水質について（第2報）	107
9. 九頭竜川水系の水質監視測定結果について	115
10. 笙の川、井の口川水系の水質監視測定結果について	134
11. 北川および河口海域と南川水系の測定結果について	141
12. 工場排水の実態と傾向(3)	145

13. 有害物質の環境汚染に関する衛生化学的研究	157
第4報 PCB汚染	
14. BODおよびCODの測定条件の変化が分析値に及ぼす影響について	167
15. 高分子凝集剤に関する調査研究	172
第2報 残留性とその魚毒性について	